

第5章

建設業者の取組事例紹介

「すべてはお客様と社員のために」
伝統を重んじ、変化することを恐れず前へ進み続ける

兼六建設 株式会社

会社概要

代表者	代表取締役社長 橋本 和宏	所在地	金沢市松島2丁目20番地
資本金	8,500万円	従業員数	60名
直近決算売上高	5,928,411千円	連絡先	TEL 076-249-2211

働きやすさとやりがいをもてる会社へ

兼六建設株式会社は、昭和26年に創業、今年で73年目を迎えました。近年、政治や文化などのグローバル化、ダイバーシティが進む中、当社もライフステージやキャリア観の異なる様々な人材が混在しています。社員一人ひとりが満足いく活躍ができるような環境を実現するために、ノー残業デーの導入や有休取得の促進、将来の担い手確保に向けた取り組みを始めました。また、コミュニケーション不足から起こる人為的ミスを防ぐためにも、「言いにくい失敗」や「小さなこと」でもきちんと言い合えるような雰囲気づくりを目指します。



社員の主体性を高め、モチベーションを向上させる

一人ひとりの能力がいくら高くても、個人ですべての仕事が終わらせることは不可能です。当社の新入社員の社内研修は、年次や職位の異なる社員と係わりを持ちながら進めていきます。時には年齢の近い社員同士で食事会を開き、仕事における自分の成功や失敗について話したり、相手の話を聞くことで自分自身の成長を実感できるようにしています。また、金沢城リレーマラソンや社員旅行などのイベントを通

じ、良好な人間関係と安心感を保つことで、一緒に働く仲間との連帯感が生まれます。

建築部では、連休を多く取得できるような独自の休日カレンダーを策定しています。週に3日ノー残業デーとして社員が共有することで、帰りやすい雰囲気浸透し始めました。さらに、法人会員として、社員はスポーツジムを自由に利用できるのも、退社後や休日に通う社員も増え、心身両面にわたり健康の保持増大に大きな効果が出てきています。

未来の担い手確保、安定した定着に向けて

こどもたちが将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための基盤となる力を育んでいく「キャリア教育」。当社も金沢市内の小学校よりお声を掛けていただき、若手社員が、建設業とはどのような業界なのか、写真やイラストを交えて説明しました。身近にある建物を例に挙げ、建設業の魅力や仕事に対する心構えなどを話していくうちに、こどもたちも興味津々になり、質問が沢山出ていました。さらに、建築を学ぶ大学生に対しては、現場見学会を開催し、将来自身が働くという意志やイメージを持ってもらいながら次世代の担い手確保を目指しています。昨年は、女性施工管理職の新卒採用を実現しました。偏見やマイナスイメージを払拭し、安心して自分の能力を最大限に発揮して、強みを活かせるようにフォロー・バックアップを進めています。



誰もが意見や考えを持ち、発信・行動していくために

近年AIの活用が一般化されていますが、AIはあくまでも指示があって動く人工知能です。

企業理念である「喜びの空間を創造し、信頼ある建築物をお客様に提供する。」を支える社員に対し、不足している知識や情報の共有、フィードバックができる教育や研修の充実がこれからの課題です。

一人ひとりが、失敗を恐れずにチャレンジし続け、社員としての価値を高めていける組織を目指していきます。



災害から学んだ「人とのつながり」を未来へ。 私たちの新たなスタート

本建設工業 株式会社

会社概要

代表者	代表取締役 本 均	所在地	石川県小松市軽海町56番地1
資本金	2,000万円	従業員数	13名
直近決算売上高	578,519千円	連絡先	TEL 0761-47-0001

[背水の陣] 一歩も退かない気持ちで取り組む「担い手確保」

当社は現在10代や20代の社員数が約1/3にまで増加し、活気あふれる企業となりました。

約10年前、当時は経験値のある30代以上の社員だけでも特に支障がなかったため、担い手確保については何とかなるだろうと簡単に考えていました。時は過ぎ、若手だったはずの社員が40代となり、ベテラン勢は老いの実感と近づく定年退職…いよいよ担い手不足の現実味が増し、未来への不安と焦りが膨らむ結果となってしまいました。

この気づきをきっかけに、担い手確保にむけた取組みを試行錯誤しながらも日々続けています。

[学問に近道無し] 学問は積み重ねてこそであり、そこに近道は無い。 担い手確保も然り。

○まず会社の存在を知ってもらう

- ・地元高校生との交流を図るため、企業説明会やインターンシップ受入れ等の学校行事へ積極的に参加しています。学校行事は対面形式が多く、文字では伝わらない説明者の人柄や会社の雰囲気を知ってもらう重要な場と考えています。

○職場環境を見直す

- ・求人内容でよくチェックされる給与体制や休日数は随時見直しを行なっています。
- ・先輩が有給休暇を進んで取得することで、後輩も休みやすい雰囲気づくりを心がけています。
- ・年齢に応じた内容の健康診断やスポーツジムの法人利用など健康推進をサポートしています。

○見た目もやっぱり大事。視覚からのアピール

- ・学生時代、進学先を決める時に制服のかわいさをチェックした経験があると思います。当社もロゴマークや作業服、ヘルメットのデザインをリニューアルし、視覚からも分かりやすいアピールを試みています。



地元高校生への企業説明会



インターンシップ受入れ

【雨だれ石を穿つ】 あきらめず続ければいつか努力は実る

ひとつひとつ積み重ねた取組みによって、令和元年から令和5年の間に5名もの若手社員の採用が実現しました。若手技術者として活躍し、長く勤めたいと思える環境づくりを目指して新たな取組みにも挑戦中です。

- ・当社は令和5年より「次世代法に基づく一般事業主行動計画」を策定・公表しており、主にワークライフバランスや女性の就業環境に関する計画を実行しています。今後は仕事と子育てが両立できる環境づくりを目指し、社員同士が協力しあえるよう理解を深めるセミナーの開催も予定しています。
- ・ICT施工の対象現場が増え、当社もついにICTバックホウを導入しました。ドローン操作や3次元図面データの作成から施工にわたり若手技術者が中心となって取り組んでもらっています。まだまだ勉強は必要ですが、やりがいや達成感を感じ先輩に教えられるくらい成長する姿が楽しみでもあります。
- ・若手技術者の育成において、従来ながらの指導がうまくいかなかったケースがありました。若手社員それぞれの個性や価値観を活かした指導ができるよう、先輩社員の意識改革が必要だと感じています。



女性技術者の活躍

次世代法・女性活躍推進法 行動計画	
社員がその能力を發揮し、仕事と生活の調和をとり働きやすい環境づくりと、女性が就業しやすい環境整備を行うために次のように行動計画を策定する。	
1. 計画期間	令和 5年 5月 1日～ 令和 8年 4月30日までの 3年間
2. 内容	
目標 1：年次有給休暇の取得率を一人あたり50%以上にする。	
<対策>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 5年 5月～ 年次有給休暇の取得状況を把握する。 ・ 令和 5年 7月～ 取得状況をとりまとめ会議にて報告し、取得促進を促す。 ・ 令和 5年 9月～ 50%に達していない社員には個別に対応し取得を促す。
目標 2：若者のインターンシップの受け入れの促進。	
<対策>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 5年 5月～ 受け入れ体制について検討する。 ・ 令和 5年 7月～ 高校生を中心にインターンシップを受け入れる。
目標 3：社内における女性の割合を維持する。	
<対策>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 5年 5月～ 社員に対しセミナーや研修などの受講を促し、女性活躍推進法について意識の向上を進める。 ・ 令和 6年 5月～ 女性社員が就業を継続しやすい職場環境を整備する。

次世代法・女性活躍推進法に基づく 行動計画

【百聞は一見に如かず】 災害が教えてくれた「人とのつながり」

令和4年8月の豪雨による梯川氾濫では一丸となり復旧に努めてきました。災害発生時から復旧作業を続けるなか、人とのつながりが復旧・再建への大きな力となったと確信しています。それは、自治体と地元住民それぞれの声をつなぐ架け橋として貢献できたこと、他社との作業連携や人材確保など横のつながりによって救われたこと、ボランティア活動に大勢の一般市民の方が集まり見知らぬ人同士が協力しあう姿を目の当たりにしたことなど書ききれないほどあったからです。若手技術者にとっては過酷な経験だったかもしれませんが、様々な経験を積み吸収し大きく成長できたことを次世代につなげていきたいと考えています。



被災時の様子(小松市中ノ峠町)



被災時の様子(小松市岩淵町)

地域と共に存続する道の模索

北能産業 株式会社

会社概要

代表者	代表取締役 福池 功	所在地	鳳珠郡能登町柳田仁部70
資本金	4,000万円	従業員数	40名
直近決算売上高	849,131千円	連絡先	TEL 0768-76-1200(代表)

地域への責任と義務を果たすために

建設業は社会の生活水準や安全の向上と維持が使命である産業で人の安心を付加価値として提供できる側面を持っています。特に自然や道路、農地等の社会インフラの防災対策や災害復旧においては大きな重責を担っています。弊社のある能登地域においては海岸線をふくむ面積に対しての建設業の数と担い手が地域の衰退と共に減少し、その責任の重さは年々大きくなっているのが現状です。社会は通信インフラが拡張し情報は早く簡単に入手でき、DX社会にむけてデータでの業務遂行が加速していますが、建設業においてはインフラというハード資源を扱う以上最終的にはそこに人が必要となる産業です。

地域に人を残すにはどうすればよいか。またUターン、Iターンを考えている人達にどのように地域の魅力を発信していくのか。人がいなくなり地域がなくなれば我々の存在意義が失われる、そのことを念頭において企業活動をしています。



工事写真(橋脚工)



工事写真(区画整理)



施工中写真(ブル)

魅力の発信と施工品質の向上

地域住民の皆様やUターンやIターンを考えられている皆様へどのようにして魅力や情報を発信すればよいかを考え、弊社ではホームページを利用し工事案内や活動内容等を発信しています。

今や建設業においても、IT化の波は抑えることができません。むしろ、インターネットをうまく活用できるか否かで、その後の事業を大きく左右するケースが増えています。

工事情報や進捗状況を随時お知らせすることにより、事前に危険個所の注意喚起を促し事故発生を未然に防ぐことに期待ができます。また、作業状況をお知らせするという事は、様々な人から作業を見られているという意識を持つことにもなり、より質の高い施工物の製作とより安心安全な作業にも繋がると考えています。

普段は見る事ができない状況を発信することで、建設業に対する知識や興味を持っていただくことが新たな人材発掘にもつながると信じております。

スキルアップとSDGsへの取り組み

より質の高い施工物(安心)を提供するにあたり、社内一丸となったスキルアップが必要と考え、資格の取得や最新技術の導入を積極的に行っています。その一例として、タブレット端末・電子黒板・電子マネIFESTOの導入を行いました。タブレット端末を利用することで多大なデータを持ち運ぶことが可能となり、必要な時に必要なデータを即時確認することができます。事務所との行き来や書類を探す時間が大幅に短縮されました。電子黒板では、以前まで撮影した写真を整理・仕分けする際に膨大な時間を費やしていましたが、取り込み時に自動で仕分けされるため書類整理の時間が大幅に短縮されました。電子マネIFESTOでは、紙の使用量が大幅に削減となり、産業廃棄物の処理状況をリアルタイムで把握することが可能となったため処理の漏れがなくなり、報告が容易になりました。どれも作業効率の向上とペーパーレス化での自然環境の保護との両面に貢献が可能です。ひとえにIT化といえども、作業効率を損ねてしまったり、環境に悪影響を与えてしまつては本末転倒となります。

以上を踏まえ、

- ・ 作業効率の向上を図り、現場での正確で丁寧な施工を実現し安心安全な施工物をお客様にお届けする。
- ・ SDGsに取り組み、能登の美しい自然を守ると同時に地域とのコミュニケーションを深めていく。
- ・ インターネットを利用し大勢の方々に魅力と情報を伝達する。

この三点の両立こそ、地域と共に共存するために必要であると考えております。

より良い共存の道を実現するため、社員一丸となり模索し続けていきたいと思っております。

「地域の守り手」としての役割

近年、発生が増加している地震災害や大雨災害などから住民の安全を守るため災害復旧や災害対策に最重点を置き活動を行っているほか、景観維持の為の活動にも力を入れて取り組んでいます。

能登地区においては高齢化の波が進み「耕作放棄地」となり管理されないほ場が増加しています。耕作放棄地が増加すれば、能登の景観は次第に失われていくことになります。そこで弊社は「農業生産部」を立ち上げ、作物の栽培等を行うことで耕作放棄地を減らし能登の美しい景観を取り戻す、維持をする活動を始めました。作物の栽培のほか「ブドウ狩り体験」や「企業の森づくり活動」を開催しています。地域の方々に実際に触れて、食べて能登の自然の良さを体感してもらい、後世に受け継いでいってほしい。という願いがあります。ブドウ狩りでは、地元小学生を対象に栽培の楽しさや実ることの嬉しさを伝えています。企業の森づくり活動では、地元の工芸品で卒業証書にも使われている「久田和紙(きゅうでんわし)」という和紙の原料となる「コウゾの木」を地元の方と共に植樹・管理し、後世に受け継ぐ活動をしています。

里山里海の自然の美しさはこの能登において他にはないと思っております。そんな能登の美しい景観を維持すること、住民の皆様の安心安全な暮らしを守ること、後世に魅力を受け継ぐこと。それが地域の守り手としての役割であると共に、UターンやIターンを考えている方への興味やアピールにもつながると思っています。

弊社の地元愛をより多くの方々に届け、地域コミュニティの輪を広げていくため今後も積極的に活動を行っていきます。



地元小学生を対象としたブドウ狩り体験



能登の里山



地元住民の方々と企業の森づくり活動